

## 8.6 緑

## 8.6.1 調査事項

調査事項は、表 8.6-1 に示すとおりである。

表 8.6-1 調査事項

区 分	調査事項
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画地北側のマテバシイ及び計画地南西、南側の既存樹のヒマラヤスギ、ケヤキ、イチョウ、クスノキを保存する計画としている。</li> <li>・新宿区指定天然記念物のシイの移植に当たっては、環境変化の影響が小さくなるよう移植先などに十分配慮するとともに、移植先での管理計画等を定め適切な管理を行う計画としている。</li> <li>・施工期間中の敷地内は殆どが作業ヤードとなるため既存樹の現位置での残置は困難な状況であるが、樹木調査の結果に従って移植に適合する樹木は極力場外で仮養生を行い、新国立競技場（オリンピックスタジアム）の緑化樹として活用する計画としている。</li> <li>・既存樹移植により現状の植物相及び植物群落の保全を図るとともに、地上部緑化等により約25,000m<sup>2</sup>の緑化を行う計画としている。</li> <li>・樹種は、計画地の潜在自然植生の構成種を中心に選択するとともに、既存樹木を保存、移植利用を積極的にを行い、周辺のみどりの景観との調和を図った植栽計画としている。また、大地に植栽することで将来的に大きくボリュームある杜の創出を図る計画としている。</li> <li>・計画地内に整備する人工地盤上には、既存樹のうち活着の良い落葉樹を中心に移植する計画としている。</li> <li>・聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側は階層構造の樹林構成の緑地とし隣接する緑との連続する緑を創出、広いオープンスペースの南側は、大地に大樹となる樹木を植栽し大きな緑が人を迎え入れる空間を創出、街に隣接する西側は渋谷川の記憶の継承と親しみのある里庭の景観を創出する計画としている。</li> <li>・透水性や硬度が適正かつ十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保する計画としている。</li> <li>・花がら摘み、つるの誘引、スポット灌水、花後の施肥、枯枝整理、支柱調整を行い、季節感や原風景のおおらかさなど特徴ある風景をつくる計画としている。</li> </ul>

## 8.6.2 調査地域

調査地域は、計画地とした。

## 8.6.3 調査手法

調査手法は、表 8.6-2 に示すとおりである。

表 8.6-2 調査手法

調査時点	工事中の終了後（2019年12月）とした。
調査期間	ミティゲーションの実施状況 工事終了後（2019年12月）の適宜とした。
調査地点	ミティゲーションの実施状況 計画地とした。
調査手法	ミティゲーションの実施状況 現地調査（写真撮影等）及び関連資料の整理による方法とした。

## 8.6.4 調査結果

## (1) 調査結果の内容

## 1) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.6-3 に示すとおりである。

なお、緑に関する苦情は工事終了までになかった。

表 8.6-3 ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	実施状況
・計画地北側のマテバシイ及び計画地南西、南側の既存樹のヒマラヤスギ、ケヤキ、イチョウ、クスノキを保存する計画としている。	計画地北側の既存樹木であるマテバシイ、計画地南側の既存樹木であるヒマラヤスギ、ケヤキ、イチョウ、クスノキを保存し、緑の量の維持に努めた(写真8.6-1、写真8.6-2)。
・新宿区指定天然記念物のシイの移植に当たっては、環境変化の影響が小さくなるよう移植先などに十分配慮するとともに、移植先での管理計画等を定め適切な管理を行う計画としている。	新宿区指定天然記念物のシイの移植は、移植管理計画を定め、聖徳記念絵画館付近に仮移植を行った(写真8.6-3)。また、計画地の外構工事に合わせて、計画地内へのシイの再移植を行い、緑の量の維持に努めた(写真8.6-4)。
・施工期間中の敷地内は殆どが作業ヤードとなるため既存樹の現位置での残置は困難な状況であるが、樹木調査の結果に従って移植に適合する樹木は極力場外で仮養生を行い、新国立競技場(オリンピックスタジアム)の緑化樹として活用する計画としている。	樹木調査の結果、移植に適合する樹木は、場外で移植または仮養生を行った(写真8.6-5)。また、これらの仮養生を行った樹木のうち、再度の移植に適合するヤマザクラ、スダジイ、イロハモミジ等の樹木23種約130本については、新国立競技場(オリンピックスタジアム)の緑化樹として活用し、緑の量の早期発現に努めた(写真8.6-6)。
・既存樹移植により現状の植物相及び植物群落の保全を図るとともに、地上部緑化等により約25,000m <sup>2</sup> の緑化を行う計画としている。	既存樹のヤマザクラ、スダジイ等の移植や、潜在自然植生(スダジイ-ヤブコウジ群集)の構成種であるタブノキ、モッコク等や代償植生(コナラ-クヌギ群集)の構成種であるコナラやエゴノキ等の新植により、約24,000m <sup>2</sup> の緑化面積を確保した(写真8.6-7~写真8.6-10)。 建物各階では、B2階のせせらぎ沿いに高・中木10種約130本、低木15種約1,800本、1階の大地の杜に高・中木50種約690本、低木35種約34,700本、3~5階のプランター約1,600基に低木10種約4,600本、5階の空の杜に高・中木30種約170本、低木30種約5,500本の樹木を植栽した。
・樹種は、計画地の潜在自然植生の構成種を中心に選択するとともに、既存樹木を保存、移植利用を積極的に行い、周辺のみどりの景観との調和を図った植栽計画としている。また、大地に植栽することで将来的に大きくボリュームある杜の創出を図る計画としている。	計画地北側の既存樹木であるマテバシイ、計画地南側の既存樹木であるヒマラヤスギ、ケヤキ等を保存した(写真8.6-1~写真8.6-3)。また、新植した樹種は、潜在自然植生(スダジイ-ヤブコウジ群集)の構成種であるアラカシ、スダジイ、ヒサカキ等を用いた(写真8.6-11)。
・計画地内に整備する人工地盤上には、既存樹のうち活着の良い落葉樹を中心に移植する計画としている。	計画地内の人工地盤上に、既存樹のキンモクセイ、イロハモミジ等の6種約50本を移植した(写真8.6-12)。
・聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側は階層構造の樹林構成の緑地とし隣接する緑との連続する緑を創出、広いオープンスペースの南側は、大地に大樹となる樹木を植栽し大きな緑が人を迎え入れる空間を創出、街に隣接する西側は渋谷川の記憶の継承と親しみのある里庭の景観を創出する計画としている。	聖徳記念絵画館外周に接する計画地東・北側の外構部には、階層構造の樹林構成の緑地を創出し、隣接する緑との連続性を確保した(写真8.6-13)。また、南側のオープンスペースには、大樹の里庭を整備した(写真8.6-8)。西側地上部には、せせらぎを整備した(写真8.6-14)。
・透水性や硬度が適正かつ十分な植栽基盤(土壌)の必要な厚みを確保する計画としている。	植栽を施す人工地盤の土壌は、軽量性、透水性、保水性や樹木をしっかりと支えられるようなせん断応力を考慮した人工軽量土壌とし、樹種と生育状況に応じた必要な植栽基盤を確保し、良好に生育する樹木を創出した(写真8.6-15)。
・花がら摘み、つるの誘引、スポット灌水、花後の施肥、枯枝整理、支柱調整を行い、季節感や原風景のおおらかさなど特徴ある風景をつくる計画としている。	植栽樹種のつるの誘引、スポット灌水、花後の施肥、枯枝整理、支柱調整等の維持管理を行い、開花や紅葉等の季節を通じた緑を創出した(写真8.6-16)。



写真 8.6-1 マテバシイ（計画地北側）



写真 8.6-2 保存樹木（計画地南西側）



写真 8.6-3 仮移植中の新宿区天然記念物シイ  
（明治神宮外苑聖徳記念絵画館敷地内）



写真 8.6-4 新国立競技場の南東側に再移植した  
樹木（新宿区天然記念物シイ）



写真 8.6-5 仮養生中の樹木



写真 8.6-6 新国立競技場の東側に再移植した樹  
木（シイ以外）



写真 8.6-7 外構部緑化（深緑の杜）



写真 8.6-8 外構部緑化（大樹の里庭）





写真 8.6-9 外構部緑化（水辺の里庭）

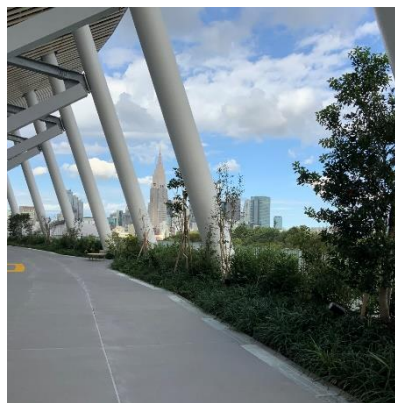


写真 8.6-10 外構部緑化（空の柱）



写真 8.6-11 新植樹木（アカガシ、シラカシ、スタジイ等）（計画地東側）



写真 8.6-12 人工地盤上緑化（計画地南西側）



写真 8.6-13 階層構造緑化（計画地東・北側）



写真 8.6-14 せせらぎ（水辺の里庭）



写真 8.6-15 植栽基盤工（客土）



写真 8.5-16 灌水等の維持管理（つるの誘引）（計画地南側）